

# つなぐ



茨城キリスト教学園  
ニュースレター

vol.1

2021  
NOVEMBER

創刊号



茨城キリスト教大学大学院  
茨城キリスト教大学  
茨城キリスト教学園中学校高等学校中学校  
茨城キリスト教大学附属認定こども園みらい園・せいじ園

発行日 2021.11.16.TUE

編集・発行

法人事務局学園広報担当

学園創設 1947年

航空写真で振り返る  
学園のいま・むかし



1955年

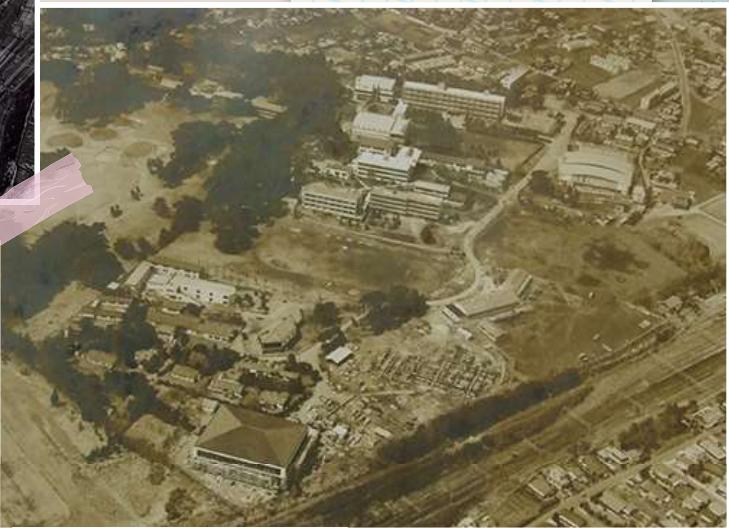
最初の航空写真  
校舎の配置に  
ご注目

1980年

少しづつ町が発展している  
様子が分かります

1995年

学園の校舎や施設が  
随分と増え、地域も  
成長しています



2022.3竣工！  
高校新4号館

日立製作所  
日立オリジンパーク  
11月オープン

そして  
2021年

2022.6竣工！  
大学新1号館

2011年  
大学11号館  
竣工

2018年  
新正門開門

2020年  
南北アクセス道路  
開通



# アフターコロナ

## を考える

### ～これからの茨城キリスト教学園と私たち～

未知のウィルスの存在が確認されてからはや2年近く。新型コロナウィルスの感染拡大は、政治、経済、社会、教育、文化、コミュニケーションなど人間活動を構成するあらゆる分野に、長期間にわたり影響を及ぼし続けています。

長引くコロナ禍の中で見えてきたこともあります。今回、学園ニュースレターの創刊号では、コロナ禍における学園の取り組みを振り返り、今後の学園に求められることについて考えていきたいと思います。

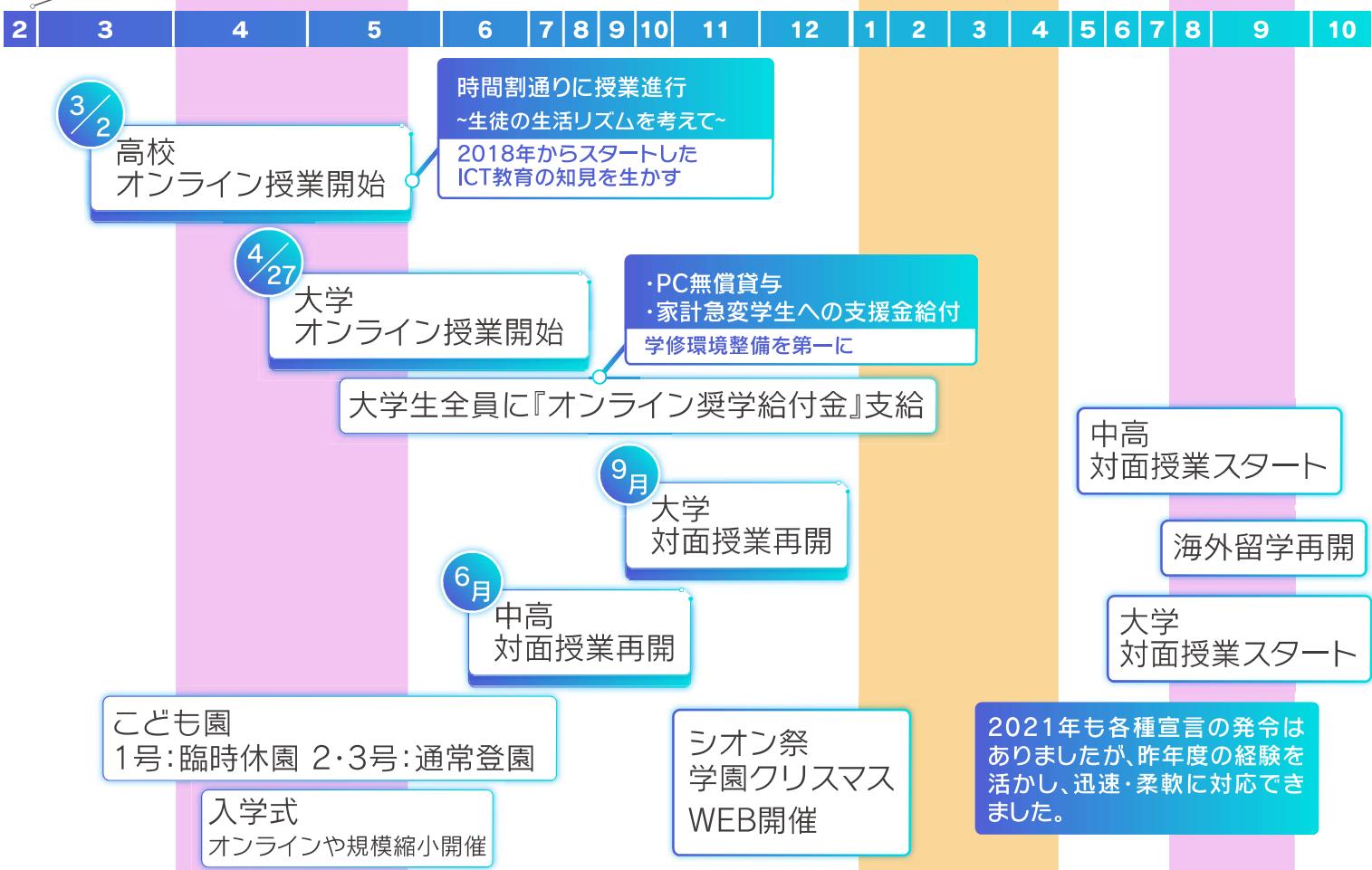
2020

全国一斉休校要請 2/27

2021

非常事態宣言

緊急事態宣言



茨城キリスト教学園  
理事長 笹尾 光

## これからの私たち

上記の表にあるように、大学・中高・こども園・法人とも努力と工夫を重ね、経験したことのない状況の中で「質の高い教育を止めない環境」を実現してくれました。対面での教育を基本としたのも、まさに「人と人とのつながりを大切に、お互いを思いやる」という建学の精神の体現そのものです。あらためて皆様のご尽力に心より感謝いたします。

学園ニュースレター創刊号が発行される11月は、ワクチン接種が進み、次の波への油断は許されないもののコロナの猛威にわずかな収束の兆しが感じられてきたところです。本稿のタイトル通り、“アフターコロナ”と呼べる時が来るのを心から願いつつ、これからの時代を見据えて学園として求められることについて考えてみました。例えば“対面とオンラインのハイブリッド”などは、もはや必須ですが手段です。そのような教育のかたちを通して、何を目指していくかが大切です。

コロナを経験して、私たちの身の回りの世界は大きく、しかも急速に変わりつつあります。そして、環境か、災害か、社会か、生き方なのか分かりませんが、再び“激変”的なフェーズが訪れるのは間違いないでしょう。その時、どのような変化に対しても、思いやりの心を持ち、平安な心で、前を向いてチャレンジできる…そういう学生・生徒・園児を育てていくのが私たちの学園のこれからのミッションだと思います。

# 新校舎特集

来年の竣工に向けて、大学・高校の新校舎建築が本格的に進んでいます。

## 大学新1号館

6月  
竣工

2022

春・夏

新校舎完成!

## 高校新4号館

3月  
竣工

知  
の交流による  
新たな学び

森  
つながりを実感する  
の中の校舎

大学新1号館は5階建。最上階には眺望抜群で開放感のある広大なラウンジ、各階に落ち着いた環境で学べる様々な学修スペースを備えています。

また、資格取得を目指す学生のための指導室も含め、キャリア支援センター、地域・国際交流センターなど学生や地域の方々へのリソースを集中させ、利便性を向上させました。



太平洋を一望にできる  
グローバル・ラウンジ

最上階には太平洋が一望にできる幅40メートルの大空間が広がります。

ここは、世界につながり地域に開かれたグローバル(Global×Local)な学びの場。

学生や教員が自由に集い、フレキシブルで、創造力を刺激する新しい形の教育が展開されます。社会人教育や多言語コミュニケーションに触れるエリアも配置されます。

陽の光と緑にあふれる新4号館は、森へと続く傾斜に沿って建つ4層の建築。

ここに学ぶ生徒が、仲間たちと、教員と、社会と、地域と、そして世界と深くつながっていく、自主性に富んだ豊かな学びの環境が整えられた校舎です。



自然が、光がさしこむ  
階段型ホール

今までの教室の概念を変える、丘の傾斜に合わせたゆるやかなステップを持つ開放的な空間です。

学びの主役である生徒が、探究活動やコーラス、部活動などのプレゼンテーションを行ったり、地域で活躍する起業家や研究者の講演に耳を傾ける場です。

生徒の自主性や創造性を育む自由で新たな学習のかたちを生み出します。

イメージ提供©竹中工務店



高校生を対象にした、新校舎建築記念講座が開講されました。

11月5日(金)、竹中工務店の全面協力のもと、本校の高校生が工事真っただ中の現場内部に入り、担当者の皆さんから設計方法や安全対策を説明を受けました。

参加した生徒からは「コンクリートの建築に興味があったので、校舎がどのように造られるのか知ることができて良かったです。新校舎ができるのがますます楽しみになりました。」という声があがりました。

学園ウェブでは、  
新校舎同時建築を  
リポート中！



# H TOPICS T

## 白井晟一 (キアラ館設計者) の 作品展が開催中です



学園シンボルであるキアラ館を設計した孤高の建築家・白井 晟一氏。氏が同じく設計した渋谷区の松涛美術館にて、開館40周年を記念した、白井晟一作品展が開催されています。氏の全貌を紹介する大規模な展示の中には、キアラ館についても珍しい図面とともに紹介もされています。詳しくは松涛美術館のホームページをご覧ください。

## コロナ禍での オンライン授業

緊急事態宣言の中、生徒の安全と安心を確保するためオンライン授業を実施しました。通常の時間割の授業を双方向で行うことで、生徒の生活のリズムを守るのが本校の特徴。コロナ禍で延期の留学もオンラインで展開することでカナダの学生と交流。1人1台のiPadが大活躍でした。今後も新しい生活に対応していく



ご意見・ご感想はもちろん、こんな人・活動を取り上げてほしい!などネタ提供をお待ちしています!

本ニュースレターに関する問い合わせ先:gakuenkoho@icc.ac.jp  
法人事務局 学園広報担当 新妻 幹生  
[電話の場合は、0294-52-3215(代)]

## 編集の一と



はじめまして、学園広報の新妻 幹生と申します。

学園広報は今年4月に新設された部署で、学園全体の魅力を(再)定義、発信する部署です。よそから来た私だからこそ言語化できる、この学園の良さをたくさん発信していきたいと思います!

このたび、学園の創立記念日(11/16)に合わせて、ニュースレターを発信する運びとなりました。タイトルを“つなぐ”としたのは、皆さんに「過去を知り、今を知り、未来につなげてほしい」からです。この学園は、74年間絶えることなく、創設者の想いによって共感した人々のつながりの中に生き続けています。そんなことを意識できる媒体となってほしいという願いが込められています。

学園ニュースレター『つなぐ』を今後ともよろしくお願いします。(2021/11/15)



## 2021年度・第73回 シオン祭をオンラインで 開催しました!

大学トップページ

新型コロナウイルスの影響を鑑み、今年もオンラインで実施することとなったシオン祭。地域の方々への感謝も込めて花火を打ち上げ、大学ゼミやサークル活動が映像で配信するなど多くの人の繋がりを考えたシオン祭となりました。動画は11月30日(火)まで大学公式ウェブサイトでご覧いただけますので是非ご覧ください。



## 1年越しの自然体験 キャンプ



新型コロナウイルスの感染拡大により、中学2年次7月に計画されていた自然体験キャンプは実施が延期され、ようやく中学3年次の10月に行うことができました。この行事は「人間関係の再構築」をテーマとし、仲間との信頼関係を深めることを目指しています。生徒の楽しそうな表情を見ることができて何よりでした。



## 秋行事を 実施しました!

10月末は、みらい園の園庭にて「うんどう会」が実施され、秋空の下元気に踊ったり走ったり応援しあいながら、身体を動かす活動を楽しみました。また、11月上旬は、せいじ園でのお芋ほりが高萩市内の農園で行われ、恵みを与えてくださる神様や畠で芋を育ててくれた農家の方に感謝し、収穫する喜びを味わいました。

